Ⅶ　次年度に向けて

次年度校内研修（体育）で取り上げて欲しい内容について（職員アンケートより）

○授業事例の紹介。
○次年度、ボール運動はどうか。
○授業の展開の仕方を共通理解したい、体育科の理論研修 、評価の仕方。
○評価、見取り、ワークシート等について。
○技能か表現力か頑張り度か…評価の仕方が迷うので、評価について取り上げてほしい。
○やる気が上がるようにしたいけど、基準を設けて評価したい…というところで悩んでいる。
○今年度は器械運動が多かったので球技なども研究授業で取り組んだらどうかなと思う。
○子どもたちが自発的に体育の授業を進めていくシステムの構築。
○授業事例の紹介について。
○授業実践の紹介、体育教材の紹介。
○「基礎感覚作り運動」がとても良いと思ったので、次年度も基礎感覚作り運動を教えてもらえるとありがたい。
○評価の仕方について。
○運動の苦手な子が体育を好きになる、できるようになる事例。

次年度校内研修（体育以外）で取り上げて欲しい内容について（職員アンケートより）

○児童の感情コントロールの方法についてなど
○生徒指導（感情コントロールについての学習）、プログラミング学習。
○感覚統合遊びは、楽しみながら基礎的な体づくりができるのかなと思う。体育に苦手意識がある子にも効果があるのでは。
○ICT 機器の活用・プログラミング等について。
○ICT 機器の研修…評価しやすくなる方法や思考ツールの活用法が知りたい。
○特別支援教育についての研修（児童理解の研修）。
○特別支援学級の児童への理解。
○情報モラルに関する研修(講座)を行ってほしい。
○ICT 機器の活用事例。
○アレルギー対応、ICT。

令和５年度　研究テーマ（案）

－運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成－
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

テーマ設定の理由

AI などの新しい技術の急速な発達による社会の変化、世界各地で起きている異常気象や自然災害等、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態、VUCA 時代を迎えている。このような時代において、学校教育では、変化の激しい社会を子ども達が生きていくために必要な資質・能力の育成が求められている。『小学校学習指導要領解説体育編』（平成 29 年告示、以下『解説体育編』）では、「豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から，運動や健康に関する課題を発見し，その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して，『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』，『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目標として示す」としている。また、これらの資質・能力を育成するためには、「運動の楽しさや喜びを味わい，自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である」と示されている。体育の学習において、運動の楽しさや喜びを味わう中で、自己や集団の課題を見付け、その解決に向けて取り組む学習過程を通して、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが重要だと考える。

本校では、沖縄県教育委員会より令和４年度から３年間「体育・スポーツ推進校」として指定を受けている。令和４年度は、領域を器械運動系に限定し、教材研究及び研究授業を行ってきた。自分がやってみたい場や自分の力に合った場を子ども達自身で選ぶことのできる「自己決定の機会」を学習活動の中に仕組んだことで、意欲的に学習に参加する児童が増えてきた。また、関わり合いツールの活用やキラリタイム（学びの交流）を設定することで、技のポイントや遊び方の工夫などについて、進んで伝え合う姿が見られた。一方、課題を設定する力や課題解決に向けた児童相互の関わり合い、体育科における言語活動などに課題が見られ、課題解決を通した成功体験を児童に味わわせるまでには至らなかった。令和４年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、「体育の授業はあまり楽しくない・楽しくない」と回答した本校児童は男子３％、女子７％であった。これらの児童を対象に行った「今後どのようなことがあれば、今より体育の授業が楽しくなると思いますか」の質問において、すべての児童が「自分に合った場やルールが用意されていたら」「できなかったことができるようになったら」と回答している。自分の力に応じて課題や練習の場、ルールや用具等を自己決定することやできる喜びを味わわせることで、運動に対する愛好的な態度が育まれると考える。

そこで本研究では、運動の特性に触れる楽しさを味わうことのできる教材や教具の工夫を行う。運動の楽しさを味わい意欲的に活動することで、「もっとできるようになりたい」といった思いを高め、自己や集団の課題形成に繋げる。課題については、自己決定の場や対話的な活動を通して試行錯誤させながら解決へと導き、できる喜びを経験させたい。そうすることで、運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む力を育むことができると考え、本テーマを設定した。

令和５年度研究構想図（案）

船越小学校教育ビジョン

重点課題：目的意識を持ち、様々な人と協働し、課題解決ができる児童を育成する

【学校教育目標】

- かしこい子　（知）
- 心豊かな子　（徳）
- たくましい子（体）

目標と児童の実態

【児童の実態】

- 体育の学習が好きな児童９０％
- １日の運動・スポーツ実施時間３０分未満の児童３０％
- 持久力に課題がある。

目指す児童像

低学年

運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすることができる。

中学年

自己の運動の課題を見付けることができる。
課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。

高学年

自己やグループの運動の課題を見付けることができる。
課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。

主題設定の理由

- 自己決定することで内発的動機付けを促し、進んで体育学習に取り組むことができるようにするため。
- 対話的な活動を通して、仲間と関わり合いながら課題を解決する力を育むため。
- 運動に対する愛好的な態度を育むため。

研究主題

運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

研究仮説

体育科の学習において、自己決定の場面を設定し対話的な活動を工夫することで、運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む力を育むことができるであろう。

自己決定の場面の設定に向けて

①教材・教具の工夫
②単元を見通した指導計画の作成
③課題形成の支援

対話的な活動の工夫に向けて

①発問の工夫
②体育科における言語活動の充実
③課題解決過程の支援